

平成28年度 第2回日野町総合教育会議議事録

日時：平成28年（2016年）10月26日（水）13時00分～14時30分

場所：日野町役場3階301会議室

出席者（敬称略）

藤澤直広町長：

日野町教育委員会：今宿綾子教育長、石岡孝浩教育委員、西村吉弘教育委員、山田めぐみ教育委員

庶務：柴田和英企画振興課参事、加納治夫企画振興課専門員

古道清教育次長、学校教育課野瀬参事、学校教育課正木課長補佐

山本和宏生涯学習課長、日永伊久男生涯学習課参事、高浪郁子図書館長

傍聴人 0人

1. 開会（柴田企画振興課参事）

2. 町長あいさつ

皆さんこんにちは。大変お忙しい中、本日はお集まりいただき、ありがとうございます。日ごろは日野町の教育行政にご支援ご提言いただき、お礼申し上げます。

秋になり地域や学校、幼稚園での運動会等が開催され、11月には文化祭が各地域および町全体で開催されるところです。これこそが地域の力であり、盛大に開催されるよう、ご支援のほどお願いします。

町では9月の議会も終わり、教育関係予算では日野小学校給食施設整備設計予算を認めていただきました。また、来年4月から桜谷地域での認定こども園の開設に向けて、教育分野と福祉の分野が連携をしながら、万全を期して取り組みを進めて行きます。今日は新年度になりまして半年が経過したので、教育の現場の話を聞きながら意見交換ができればと考えております。

3. 協議事項

（1）教育行政の現状について

藤澤町長：現在の教育委員会、教育の取り組み等の到達点等について教育長、報告をお願いします。

今宿教育長：

- 生徒指導・教育相談の課題
- SSW、言葉の教室の指導員活動状況説明
- 日野中学校いじめ重大事案発生の報告
- 各地区公民館活動について
- 学力向上の取り組み
- 平成29年度事業、日野町の学校・家庭・地域の連携事業の取り組みについて

藤澤町長：平成 29 年度の「地域力強化プラン」というのは県教委が考えているということですか。

今宿教育長：はいそうです。

藤澤町長：これは県教育委員会のどこが担当ですか。

野瀬参事：県の窓口は生涯学習課です。町では生涯学習課と学校教育課が連携して推進していきます。以前から学校支援地域本部事業があり、地域の方々による学校の支援をお願いしていたものを、支援から連携・協力という面を強化して取り入れます。日野町では特色のある教育活動として各学校が創意工夫をし、地域の皆さんの協力を得ながら努めており、地域学校協働活動推進本部を立ち上げ、生涯学習と連携し学校教育を充実させていきたいというのが狙いであります。

町長：十分議論をして進めていただけたらと思います。

西村教育委員：9月に、教育委員会で長野県下諏訪町を視察し勉強してきました。地域が学校を支えるというイメージでは、日野は地域の方のご協力が進んでいます。更に地域との絆を強くし地域が学校を支えていこうというものです。長野県は文科省のコミュニティ・スクールとは少し違い、下諏訪町独自のやり方で実施されています。日野で実施するにしても工夫してやっていかないといけないと考えます。

今宿教育長：今回の事業では、財源に県と国から補助があり、町の財源と合わせて活動が出来ます。まず、コンセプトが必要であり、平成 29 年度に向けて計画をお話しさせていただきました。

藤澤町長：西村教育委員がお話しされたように、これまで日野で培ってきた経過があるものは、それを活かしながら取り組むということです。この資料は国からのものですか。

野瀬参事：国の資料で、県が作成したものです。

石岡教育委員：この資料ですが、記載のある「統括コーディネーター」を公民館が引き受けてくれたら地域のコミュニティーが一体化となり、理想の形ができると思います。総合計画の答申にあったように、公民館の再構築が最重要課題となりました。その話と合わせれば、この計画は出来上がると思います。

藤澤町長：統括コーディネーターとは？

石岡教育委員：学校と地域、ボランティアなどを結びつけて社会教育活動を行うことが、最終目的だろうと思います。

今宿教育長：1 ページ目の枠の所に「学校支援部」があります。3 つの活動をするというこれは、信州の視察で教えてもらって作られたものです。「学校支援部」はコーディネーターが事業の支援をします。例えば、小学校のコーディネーターが学校活動を理解し、公民館に事務所をおいて活動してもらうということです。

「地域連携部」は公民館をイメージしています。地域の行事に小中学生が参加し、地域活動に学校と連携するための組織としています。コーディネーターは各地域の公民館の役員、事務局は公民館主事にといます。

「広報部」は、学校支援部のコーディネーターさんが広報できればと思います。

藤澤町長：学校支援部・地域連携部・広報部はどんな組織で誰が仕切るのですか？

今宿教育長：主にコーディネーターです。

藤澤町長：コーディネーターは誰がするのですか？

今宿教育長：学校と共に、これから決めて行きます。

西村教育委員：学校と学校を取り巻く色々な団体で運営委員会を組織し、コーディネーターが調整役となります。コミュニティ・スクールの小型版のようなものです。地域が学校を支えるためには具体的な行動でしか出来ない。地域と連携していく事が学校にとっても、子どもにも必要なことです。

藤澤町長：滋賀県内では既に実施されているところがありますか？

今宿教育長：平成 20 年からこの事業は始まっており、知っているところでは、安土町で実施されています。

藤澤町長：安土はどのような活動をされていますか？

今宿教育長：近江八幡市になり、活動が拡大しているようです。

野瀬参事：まず一番軸になるのはコーディネーターです。例えば授業で茶道教室をしたい時にコーディネーターと教師が相談し、公民館と連携して茶道の先生を紹介してもらい、地域の方に茶道の指導を授業でしてもらいます。それが指導者の生きがい作りになったり、子どもとの交流を楽しんだりできます。地域ボランティアの発掘も出来るのではと考えています。学校も教師がーから地域ボランティアを探すのは難しいです。輪を広げ、組織を作りたいと考えています。

藤澤町長：近江八幡市ではどのような活動をされていますか。

野瀬参事：コーディネーターを配置し、学校と地域の相談役として活動されています。

藤澤町長：生涯学習課、学校教育課で十分議論し、皆が共通認識をすることが必要です。

（２）その他

藤澤町長：それでは意見交換をお願いします。

石岡教育委員：私の子どもが三十坪と小谷の田んぼの道で「声かけ事案」で被害に遭いそうになり、警察を呼びました。このような事案は５月にもあり、石原の子どもが被害に遭っています。被害対策として、初動に啓発チラシを配布するといったような活動が、行政でやっていただければと助かります。

藤澤町長：スクールガードの方が行なってはどうか。

今宿教育長：他の地区で不審者の情報がありました。地区の方が見守ってくださったり、取り締まったりして見守り活動が行われています。学校では複数下校などの対応をしています。

野瀬参事：教育委員会としては、情報をいただきましたら地域の見周りを行なって安全を確認しています。交番へも連絡し、巡回を増やして対応いただいております。学校でも情報をキャッチ

しましたら、教員が現場へ向かい確認をしています。日野小学校であった事案では、情報をもとに帰り道に連絡をしていただき、容疑者が特定出来て警察が指導したという事例もあります。

藤澤町長：学校では保護者にメールで情報を流していますね。

野瀬参事：スクールメールで流しています。

藤澤町長：警察は現場に行なってくれるのでしょうか。

石岡教育委員：はい警察は現場に行き、実況見分されます。

藤澤町長：子どもたちが下校するのはバラバラでしょうか。

野瀬参事：西大路はバラバラになり、最終的に1人になる子どももいます。

藤澤町長：子どもが少ないことも理由ですね。

今宿教育長：はい、それはあります。

藤澤町長：もっと対応策を議論する必要がありますね。教職員の皆さんはどのような考えを持っておられますか。

今宿教育長：普段から、地域の方が下校時間帯に犬の散歩をしてもらうと無理なくパトロールをしてもらうことで、すぐに声かけができ、防犯意識が高くなると思います。

藤澤町長：青パトはどのような活動をされていますか。

今宿教育長：青パトは日程と時間を決めて巡回しています。しかしながら、低学年の下校時間帯と高学年下校時間帯が違うこともあり、隙間の時間が気になります。

藤澤町長：巡回はどれだけされているのでしょうか。

野瀬参事：週2回、月・水にいただいています。必佐地区、南比地区にも巡回されています。

藤澤町長：朝、夕、共に良く活動されていますね。様々な事案があることを各地区の安全な町づくり協議会にてお話しいただければと思います。

その他に意見はございませんか。

西村教育委員：ICT 教育とかは日野町はどのように進めていけば良いのだろうかと思います。特定の学校だけがやっているのではなく、他市では町の塾みたいなのところでも教えるなど、色々行われています。

低学年から始めようとする外国語教育もそうです。英語を低学年から行う効果があるかどうかと言った検証が十分とされているのでしょうか。幼稚園、小学校、中学校では基礎的な勉強が必要だと考えます。

藤澤町長：私もそう思います。それは教育だけでなく他の行政分野でもそうです。もっと事業を精査し、基本をしっかりおさえてやるということが求められていると思います。

山田教育委員：西大路小学校は様々な地区から登校する子どもがいます。バス通学の保護者から町から補助が出ていると聞いたのですが、それを無料にならないのでしょうか。また、バスの時刻が合わないのでは何とかならないのでしょうか。

子どもが中学受験で、インフルエンザの注射を受けさせようか迷っています。高齢者には補助

が出ていますが、子どもは2回受けなければならないので補助が出て安くなったと思います。

藤澤町長：まずバスの話ですが、無料となると結果としてどの地域にも町営スクールバスを運行しなければならないとなります。バス通学をどう見るかというのは、日野町全体のバス運行をどうするのかということにも関わってきます。時間を合わせる努力をするのは出来る範囲で可能だと思いますが、無料というのは出来ないと考えます。

山田教育委員：せめて今、乗っている児童だけでも無料にならないでしょうか。

藤澤町長：桜谷地区も2分の1補助を出しています。無料は出来ないと考えます。無料となると、他の地域にもバスを走らせなければいけないこととなります。バス本体の費用、バス運行費、スクールバスへの特化、高齢者の病院へのバス運行などバスの課題は多いです。

石岡教育委員：仮定の話ですが、学校の統廃合とセットに考えるのはどうでしょうか。

藤澤町長：それは可能かもしれませんが、地域の合意が得られないと思います。

藤澤町長：現在、バスは5台を運行していますが、高齢者の交通手段でもありますので、スクールバスに特化が出来ないという現実があります。それでも現在の時刻は登下校を中心としたダイヤになっています。「乗れる人」と「乗れない人」がある中で無料ということは、かえってバランスを欠くということなので困難です。

インフルエンザの予防注射については、例えば今、子どもの医療費を10月から中学3年生まで500円にしました。高齢者にはそのような制度を適用しておりません。かつて老人医療費の無料化が国全体で進んでいましたが、財政的に見直され、75才以上1割負担、最近75才以上でも一定の収入がある人は3割負担となっています。インフルエンザだけを見ると「高齢者優遇」となりますが、医療費全体を見ると「子ども優遇」となっています。

藤澤町長：その他に意見はございませんか。

石岡教育委員：今回の資料で、子どもの社会性を学校が社会教育をしなければならないという状況になってきています。食育に関しても学校で対応しなければならない状況です。そんな中、期待されているのが公民館です。でも公民館も画期的に変えるのは難しいと思います。町長自らが乗り出して、何かてこ入れしてもらわないと抜本的に変わらないと思います。

藤澤町長：確かに社会教育は大事な課題です。日野町の公民館活動は町の誇りでもありますが、公民館と生涯学習課との連携が必ずしも十分でなく、今年度は公民館グループを設置し、公民館との連携を深めています。

今後どのように手立てを講じるかですが、地区運動会、文化祭など地区規模の大きな公民館と小さな公民館の差はありますが、小さなところは特色を出して活動しています。

時代の流れとニーズに合った公民館の活動を進めて行く、若い方の力を町も公民館も教育委員会も引き出し、人材発掘をして行くことが大事なかなと思います。

この資料の中で、PTAの活動が入っていません。一番大事な団結すべき集団のPTAがこの資料の中には欠落していると思います。

今宿教育長：資料からあえて抜いている訳ではありませんが、PTA との連携も必要と考えます。

また、今後、学校現場には英語教育など様々な教育が入ってきます。今後も様々な要望に耳を傾け学校教育に活かしていかなければと思います。

藤澤町長：地に足をつけてやらなければと思います。国や県の事業に左右されないよう現場を見る力を教職員や教育委員会がもたなければと思います。

子どもの顔を見て、教職員が力量を高め、分かる学習をし、子どもたちを育てていく教育の原点こそが大事にしなければと思います。

熱心なご議論ありがとうございました 以上をもちまして第2回教育会議を終わります。

閉会

以 上